

開発教育指導者研修(実践編) 第2回

■ 開催概要

- ◆ 日 時 : 平成 25 年 7 月 20 日 (土) 13:00~17:00、21 (日) 10:00~15:00
- ◆ 場 所 : なごや地球ひろば2階 セミナールームA
- ◆ 参加者数 : [1日目] 受講者 39 名、JICA 3 名、NIED 5 名、オブザーバー3 名、合計 50 名
: [2日目] 受講者 38 名、JICA 7 名、NIED 5 名、オブザーバー2 名、合計 52 名
- ◆ ファシリテーター : (特活) N I E D ・ 国際理解教育センター 伊沢令子

■ 第2回のねらい

- ★ 開発教育・国際理解教育の目的を確認し、この教育で扱う5つの柱について体験を通して理解する。
- ① 人や世界の多様性と同一性、自己—他者—社会—未来のつながりについての「学び方」を学ぶ。
 - ② 持続可能な未来の実現にとって不可欠な「持続可能な環境」と「貧困の解決」の学び方を学ぶ。
 - ③ 「よりよい未来作りに関わる力」を、参加型を通して育てる具体的な方法を体験的に共有する。

■ プログラムの内容

● セッション1 「多様な人、多様な世界と肯定的に出会う！」 7/20 13:05-15:09

1. 本研修のねらいとスケジュールの確認 13:05-[19]

- ◇ 司会があいさつを行うとともに、オブザーバー (JICA 北海道、JICA 地球ひろば、JICA 九州) があいさつを行う。
- ◇ 教師海外研修を含めて本研修の全体の流れ、第2回のねらいとプログラムをファシリテーターが説明する。
- ◇ 5~6人の8グループに再編し、グループで「〇〇な誰々です」で一言自己紹介を行う。

2. 第1回のふりかえり 13:24-[24]

- ◇ 第1回研修の報告を読んで気づいたこと、わかったこと、感想などを各自3つ考える。
- ◇ 3つのことを理由も含め1人1分30秒程度ずつグループで伝え合う。

3. アイスブレイキング~カードで自己紹介 13:48-[25]

- ◇ ①自己紹介のお題が書かれた24つのカードを伏せてグループの机の上に置き、1人1枚ずつカードを引いてそこに書かれたお題で20秒間ずつ自己紹介し合う。
- ◇ ②さらに1枚ずつカードを引いて自己紹介し合う。③他の人が既に引いたカードから1枚選び引いた順に自己紹介する。④伏せたカードの中から1枚だけ選び、グループ共通のお題として自己紹介し合う。



4. 開発教育・国際理解教育が扱う5つの柱 ミニ・レクチャー 14:13-[5]

- ◇ レジュメをもとに国際教育・国際理解教育が扱う5つの柱についてファシリテーターが解説する。

5. 世界は多様だから面白い! ~Meets The World クイズ 14:18-[29]

- ◇ グループに配られたインドネシア、ガーナ、ラオス、チャド、フィリピン、インドに関するクイズシートを各自1つずつ選び、そのクイズを解いたのち解説を読みその国について理解する。5分間。
- ◇ グループの他のメンバーに自分が担当した国について肯定的かつ多面的に出会い関心を持ってもらえるように1人2分間でプレゼンを行う。



- 休憩 - 14:47-[10]

● セッション2 「人や世界の多様性と同一性を理解し、つながりに気づく」 7/20 14:57-17:09

1. グループ替えと一言自己紹介 14:57-[7]

- ◇じゃんけんをして勝った2人負けた2人が前後のグループに移動することで、グループ替えを行う。
- ◇「わたしの得意なこと」をお題にグループで自己紹介し合う。

2. 地球家族なりきり自己紹介 15:04-[19]

- ◇世界30カ国の「地球家族」という写真（その国の一般的な家庭の家財道具と家族すべてを撮影したもの）から1グループ6カ国ずつ配付する。その中から各自1カ国を取り、そこに写っている人や動物になりきってその家族などについて紹介できるように想像しながら考える。
- ◇1分～1分30秒間程度ずつ写真を見せながらその家族などについてグループで「なりきり自己紹介」をし合う。
- ◇写真の出典（ピーター・メンツェル著『地球家族—世界30か国のふつうの暮らし』TOTO出版）をファシリテーターが紹介する。



3. 世界の多様性と人の心の同一性 15:23-[9] →成果1参照（多様な所、共通点、嫌だと思うこと）

- ◇6カ国の写真のなりきり自己紹介を踏まえ、「多様だと思ったところ」と「共通すると思ったところ」をグループで考え、対比表形式で用紙に書く。
- ◇自分が写真の家族の一員だとして、写真だけを見て言われたり想像されたりすると嫌だと思うことをグループで考え、先用の紙の裏に書く。その後用紙を回して、他のグループのアイデアを共有する。
- ◇地球家族の写真のその他の使い方（例：豊かだと思ふ順番に並べる、持続可能な暮らしの順番に並べる）についてファシリテーターが説明する。

4. 幸せの指標とは！？～幸福に生きる権利と普遍的人権 15:32-[31] →成果2参照（幸せの指標）

- ◇自分にとっての幸せを各自想像し、用紙に7～10個程度具体的に書き出す。
- ◇具体的に書いた幸せの様子を各自一般化し、幸せの指標となるものを5つ程度にまとめ1項目1枚の付せん紙にマジックで書く。
- ◇付せん紙に書かれた幸せの指標をグループでカード式整理法（KJ法）により分類・整理をして、グループとしての幸せの指標をまとめる。
- ◇自分たちが考えた幸せの指標を踏まえ、ブータンで採用されている国民総幸福量（GNH）を測る10の指標（1つは「良い統治」であることを伝える）が何であるか考え用紙に書き、その後全体で発表する。
- ◇ブータンのGNHの10の指標に関する資料を読み、自分たちが考えた指標と比べながら理解する。



5. グループ替えと一言自己紹介 16:03-[6]

- ◇グループ替えを行い、新しいグループで「わたしの苦手なこと」をお題に自己紹介し合う。

6. わたしと世界をつながりを見つけよう 16:09-[21]

- ◇ソロモン諸島、ベネズエラ、カンボジア、コンゴ共和国、イラン、モンゴル、サモア、マレーシア、ガーナ、フィリピンと日本とのつながりが書かれたカードがどの国のものかグループで考える。その後答え合わせをする。
- ◇そのつながりにより起きていることが書かれたカードがどの国のものかグループで考え、その後答え合わせをする。
- ◇マイナスの影響が出ているカードを考えて選ぶ（本来はその後マイナスの影響に関する資料を読み解くが省略）。

7. JICA TIME 「世界は、キミにつながっている。」 16:30-[15]

- ◇途上国と日本との相互依存についてのJICA作成の動画「世界は、キミにつながっている。」を視聴する。

8. 1日目のふりかえり 16:45-[11]

- ◇今日わたしが気づいたこと、学んだことをグループで紹介し合う。

9. 事務連絡 16:56-[4]

- ◇資料の修正、第1回ふりかえりシートの返却、海外研修受講者への確認・連絡事項、なごや地球ひろばの訪問体験プログラムなどについて連絡する。

★ 17:00 終了

● セッション3 「貧困の学び方:世界の貧しさをなくすためにできること」 7/21 10:03-11:50

1. あいさつ、グループ替え 10:03-[6]

- ◇ 司会があいさつする。1～8の番号を振り、同じ番号の人同士でグループを作る。

2. 60秒メッセージと傾聴、一言自己紹介 10:09-[19]

- ◇ 対面で座っている人とペアになる。
- ◇ 傾聴（「あたま」質問しないで聴く、「こころ」心を傾けて聴く、「からだ」体全体で共感を表しながら聴く。）について説明する。
- ◇ じゃんけんをして話し手・聞き手を決める。話し手は60秒間で「楽しかった夏の思い出」を話し、聞き手は傾聴で聴く。その後、聞き手は40秒間で聴いた内容を話し手にそのまま振り返す。話し手は振り戻された内容に不足・間違いがある場合は優しく訂正する。
- ◇ 話し手と聞き手を交代して同様に行う。
- ◇ コミュニケーションの3要素（「考える…自分を振り返る」「伝える…相手に心をひらく」「聞く…相手を受け入れる」）についてファシリテーターが解説する。
- ◇ 「この夏にこんなことを楽しみにしている誰々です」という一言自己紹介をグループで行う。



3. 貧困の定義と貧困の暮らしの状況 10:28-[14] →成果3参照（貧困になると起こること）

- ◇ 貧困の1つの定義を「主に経済的な理由によって生活が苦しくなり必要最低限の暮らしができない状態」とした場合、それはどんなことが起きることか各自考え、ポップコーン方式により全体で発表する。
- ◇ 年収450ドル以下の暮らしの例について書かれた資料を各自読み、絶対的貧困についてイメージする。
- ◇ 自分に置き換えて考えることで貧困など他人事を自分事にするができることをファシリテーターが解説する。

4. 「貧しくて困る人がたくさんいる」のはなぜだろう？ 10:42-[26] →成果4参照（貧困の因果関係図の例）

- ◇ 貧困に陥る原因をグループで考え、その因果関係を模造紙に表す。
- ◇ ギャラリー方式で他のグループアイデアを共有する。その際なるほど！と思ったアイデアに☆印をつける。
- ◇ 貧困の状況や原因について書かれた5つの資料のうち1つを各自分担任して読み、貧困の原因だと思う部分に下線を引く。
- ◇ 自分が読んだ資料からわかった原因をグループで発表し合い、先の因果関係図で出されていない原因については模造紙に書き加える。
- ◇ 小学校高学年で行う場合の原因カードを配り、その使い方や趣旨（原因を知ることが大切。原因を考えることで対策を考えることができる。）についてファシリテーターが解説をする。



5. 貧困の特徴～貧困の悪循環 11:08-[7]

- ◇ 8枚の貧困に関するカード（貧困、栄養が十分に取れない、栄養不良になる、学校に行けない、能力や技術が身に付かない、仕事が見つからない、収入が足りない、健康を損なう）をグループで悪循環になるように並べる。
- ◇ 1つのグループが悪循環の順番を全体で発表する。
- ◇ 貧困の特徴（貧困になると悪循環に陥る）についてファシリテーターが説明する。

6. モロッコのムハンマドさん一家を救え！？ 11:15-[18] →成果5参照（一家を救うアイデア例）

- ◇ モロッコのムハンマドさん一家の状況が書かれた資料を各自読む。
- ◇ グループメンバーがムハンマドさん一家と想定し、どうしたら資料に書かれた貧困の状況を脱することができるかのアイデアを話し合う。7分間。3つのグループが考えたアイデアを全体で発表する。
- ◇ 実際にムハンマドさん一家を救った方法とその中核をなしたマイクロクレジットについて書かれた資料を各自読む。

7. 貧困の悪循環を脱するために必要なもの・役立つこと、できること 11:33-[23]

→成果6参照（必要なもの・役立つこと）、→成果7参照（わたしができること）

- ◇ 貧困の悪循環を脱するために必要なもの・役立つものを全体でポップコーン方式により発表する。
- ◇ 世界の貧しさをなくすためにわたしができることを各自7つ考える。
- ◇ 各自が考えたアイデアをグループで紹介し合い、グループとしてのベスト5にまとめる。
- ◇ グループの1人がメッセンジャーとなり、隣のグループメンバーに自分のグループのベスト5を説明する。また、メッセンジャーは隣のグループのベスト5を聞く。メッセンジャーは自分のグループで隣のグループのベスト5を

伝え、それ以外のメンバーは隣のグループのメッセージャーから聞いたベスト5を自分のグループのメッセージャーに伝える。

◇ 大学で同じアクティビティを行った際に学生から出されたアイデアをファシリテーターが紹介する。

- 休憩 - 11:56-[67]

● セッション4 「環境の学び方:私たちの暮らしと環境」 7/21 13:03-15:08

1. グループ替えと一言自己紹介 13:03-[14]

◇ 8種類の飴を使ってグループ替えを行う。

◇ 「今まで訪れたところで最も美しい風景」についての一言自己紹介をグループで行う。

2. 日々消費している天然資源には何がある？ 13:17-[7]

◇ 天然資源の定義（天然で存在して人間の生活や生産活動に利用する物質）をファシリテーターが説明する。

◇ 私たちが消費している天然資源と思うものをグループでできるだけ多く出し合う。一番多く書き出したグループが全体で発表する。

3. 水資源、森林資源、エネルギー資源と私たち 13:24-[18]

◇ グループの中で3つのペアを作り、「水」担当ペア、「森林」担当ペア、「エネルギー」担当ペアに割り振る。

◇ それぞれ「水…どんなことに水を使っているか」、「森林…自分の身の回りに木でできるものは何か」、「エネルギー…生活の中で使うエネルギーにはどんなものがあるか」を各ペアが考え、用紙に書き出す。…①

◇ 3~4つの同じ資源の担当ペアが集いアイデアを共有する。



4. 水資源、森林資源、エネルギー資源の現状と課題 13:42-[18]

◇ 担当している資源が減少したり枯渇したらどんな影響があるか各ペアで派生的に考え、用紙に書き出す。…②

◇ 自分が担当している資源の現状や問題点について書かれた資料を各自読む。…③

5. それぞれの資源の現状と課題の共有～プレゼンテーション 14:00-[11] →成果8参照（気づいたこと）

◇ ペアごとにこれまで考えたり学んだりした①②③の内容をグループの他のペアに対して3分間でプレゼンを行う。

◇ この活動を通して気づいたこと、わかったこと、感想などをグループで発表しあう。3つのグループが全体で発表する。

6. グループ替えと一言自己紹介 14:11-[4]

◇ グループ替えを行い、新しいグループで「わたしを動物に例えると」について一言自己紹介を行う。

7. 生物の絶滅による影響 14:15-[7] →成果9参照（絶滅の影響の例）

◇ 野生生物が絶滅することによる私たちが受ける影響にはどんなことがあるかグループで考え、用紙に書き出す。その後全体でポップコーン方式により発表する。

8. オランウータンの減少の原因と私たちとのつながり 14:22-[9]

◇ ボルネオ島のオランウータンの減少している現状に関わっている関係者の言い分が書かれた資料を各自読む。

◇ オランウータンが減少している原因・背景となっていることをグループで出し合う。日本にいる私たちに関連がある原因・背景に☆印をつける。

9. 力を合わせオランウータン絶滅の危機を乗り越えよう！ 14:31-[12] →成果10参照（解決策の例）

◇ 関係者ごとに、私たちにできる解決策をグループで考える。4つのグループが解決策を全体で発表する。

● セッション5 「持続可能な未来をわたしから」 7/21 14:43-15:10

1. 持続可能な未来を実現するためにわたしにできること 14:43-[7] →成果11参照（できること）

◇ 持続可能なよりよい未来を作るために、わたしにできることを各自5つ考え用紙に書く。

◇ わたしにできることを考えるためのツール「持続可能な未来を実現する9つの方法ランキングシートおよび情報提供」についてファシリテーターが解説する。

2. 全体ふりかえり・情報提供・事務連絡 14:50-[20]

- ◇ 公益財団法人愛知県国際交流協会『世界の国を知る・世界の国から学ぶ わたしたちの地球と未来 活用マニュアル Ver.2』の提供および関連講座についてファシリテーターが説明する。
- ◇ JICA 開発教育支援メニューや関連資料、情報入手先ウェブサイトなどについて JICA 中部職員が説明する。
- ◇ 第2回研修を通して気づいたこと、発見したこと、大切だと思ったことなどを各自用紙に記入する。
- ◇ 各県市で行うイベントを各県市推進員が紹介する。

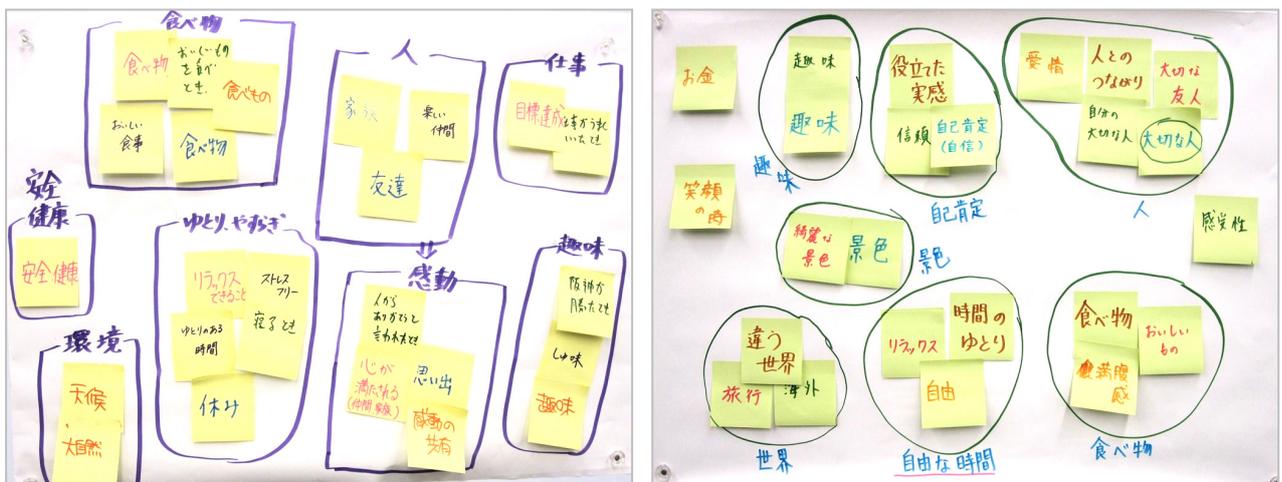
★ 15:10 終了

■ 主な成果

● **成果1**：「地球家族」の写真を見比べて「多様だと思ったところ」と「共通すると思ったところ」
写真だけ見て「言われて嫌だと思うこと」

- ◇ 多様だと思ったところ…人種、骨格、家族の形、家の造り、気候、住んでいる環境、家財道具、電化製品の有無・種類、モノの多さ（量）、着ているもの（ファッション）、食器、移動手段、情報を得る手段、動物の役割、乗り物、宗教
- ◇ 共通すると思ったところ…家族（子ども）がいる、家族を大事にしている、大切にしているもの・誇りに思うものが前に出ている、家がある、家に自然の素材を使っている、動物がいる、服を着ている、笑顔、交通手段がある、テレビがある、リビングボードがある（お茶・食器）
- ◇ 言われて嫌だと思うこと…幸せでないと勘違いされる、貧しそう、暗い、汚い、文明の利器がなく可哀想、狭い、余裕がなさそう、不衛生、大変そう、食べ物がまずそう、家族の仲が悪そう、そこに住みたくない・行きたくない、お金があるけど幸せそうじゃない、お金持ちでいいね～、自然がないね、大事にしているものをムダだと思われる

● **成果2**：自分にとっての幸せの指標とは？ KJ法（例）、ブータンの指標の予想

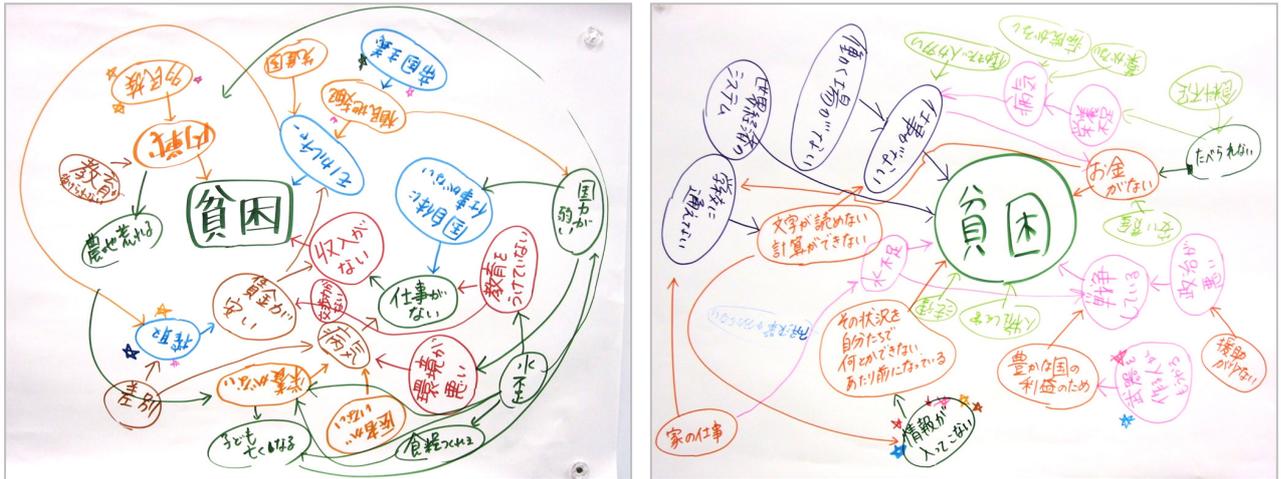


- ◇ ブータンの指標の予想…人物的欲求、お金、食べることが満たされている、自由、表現の自由、自由になる時間・余暇、趣味が楽しめる、笑いがある、わくわく感、リラックスできること、人とのつながり、自己の成長、明るい未来への希望、健康、豊かな自然、平和

● **成果3**：「貧困になると起こること」（ポップコーン方式発表）

食べ物がない、住むところがない、飲み水がない、着る物がない、お金がない、病気になる、
 医者にかかれない、学校に行けない、差別を受ける、子どもも働かなくては行けない、将来を思い描けない、
 毎日が不安になる、仕事がない

● **成果4**：貧困に陥る原因は？因果関係図（例）



● **成果5**：モロッコのムハンマドさん一家を救う方法のアイデア

- ◇作物を小麦以外のものを作る。
- ◇母親も働く方法を考える。
- ◇学費の軽減を考える。
- ◇長男が学校で農業技術を学ぶ。
- ◇援助がない場合は、地域で協力をして同じ悩みを抱えている家族と協力して何かをする。
- ◇働く子どもと教育を受ける子どもを分けて考える。
- ◇水を引いたり、溜める方法を考える。
- ◇自分たちで小麦をパンにして売る。
- ◇路上ライブを行い、収入を得る。
- ◇外からの援助を頼む。

● **成果6**：貧困の悪循環を脱するために「必要なもの・役立つこと」

- ◇医薬品を送る
- ◇就学支援
- ◇資金援助
- ◇雇用の確保
- ◇研修員制度（途上国の人を日本に呼んで学んでもらう）
- ◇JICA（政府開発援助）による活動
- ◇フェアトレード（公正貿易）
- ◇国際協力を行うNGOを支援する
- ◇ユニセフによる活動
- ◇国境なき医師団による活動
- ◇エコキャップ活動
- ◇ボランティア
- ◇現状を知ること
- ◇ワークショップ

● **成果7**：貧困の悪循環を脱するために「わたしにできること」（グループでまとめたベスト5）

- ◇ グループ1…①フェアトレード商品の購入と紹介、②知ったことを人に伝える（アンテナを張る）、③無駄をなくす（リサイクルなど）、④世界で役立つ技術を身につける、⑤支援先、方法を慎重に選ぶ
- ◇ グループ2…①子どもや同僚に伝え知識を共有する、②エコキャップ活動を行う、③JICA や NGO の活動を支援する、④フェアトレードを進める、⑤環境に配慮する
- ◇ グループ3…①フェアトレードを進める、②現状を知り伝える、③健康管理（早寝早起き・食事）、④省エネを心がける、⑤募金活動に参加する
- ◇ グループ4…①学ぶ、②伝える、③実行、④エコ、⑤星に願い
- ◇ グループ5…①考える機会を作る（子ども・家族・仲間に伝える）、②フェアトレード商品を購入する、③無駄を減らす、④途上国に旅行する・勧める、⑤協力隊に参加する、⑥自分と他者を大切に！
- ◇ グループ6…①知る、②教育、③ボランティア、④フェアトレード、⑤現地へお金
- ◇ グループ7…①学校での国際理解教育（現状を知らせる）、②ファストフードなど安いものには裏がある→国際相場を調べて誰が泣いているのか考えてみる、③節電をして地球温暖化を防ぐ、④NGOに参加する、⑤自分自身も貧困の暮らしを体験してみる→現地に行ってできることをし、日本の生徒に伝える。
- ◇ グループ8…①フェアトレード、②国際理解教育（体験型で関わりと伝える）、③途上国に海外旅行に行く、④現地の人への日本語教育（将来、日本に来て働くことができる）

● **成果8**：資源の現状と課題についての活動を通して気づいたこと、わかったこと、感想

- ◇環境資源は枯渇していく現状にあり差し迫った問題であることがわかった。
- ◇上流と下流で水争いがあるということが知れてよかった。
- ◇資源がなくなると最終的には人類滅亡につながることに気づいた。
- ◇震災で節電していた経験がしばらくたって忘れ気味になっている。

● **成果9**：野生生物が絶滅することによる私たちが受ける影響（ポップコーン方式発表）

- ◇害虫が増える ◇バランスが崩れる ◇次の絶滅が起きる ◇天然物（食糧）がなくなる
- ◇動物園がつまらなくなる ◇水族館がなくなる ◇ペットビジネスが儲かる

● **成果10**：オランウータン絶滅の危機を乗り越える解決策の例

- ◇アグロフォレストリーに習って、パーム椰子単一栽培から脱却する。
- ◇旅行会社…不便なこと（道が整っていない）に付加価値をつける。
- ◇農家、旅行会社、環境保護団体をつなげる。アブラヤシの加工品を作る、旅行会社はエコツーリズムを企画する。環境保護団体は、その2者をつないで、WIN-WINのコーディネーター役を担う。
- ◇農園経営者…商品を売る際に、生産にかかった苦勞・背景を知らせる。

● **成果 11**：持続可能な未来を実現するためにわたしにできること（9つの方法に分類・整理したもの）**A. 地球の抱える問題について調べ、現実を知る**

- ◇環境・貧困についての知識をもっと身につける ◇現状を知り伝える（大人・子ども）
- ◇アンテナを高くし世の中で起こっている事を知ること ◇流通や消費のカラクリを知ろうとする。考える
- ◇商品の生産～販売までの背景を知る ◇現状が生まれる原因を多角的に（関わる人の利害など）を探る

B. 問題解決に取り組む団体の講座やイベントに参加する。

- ◇日本にいながら世界の人権・環境を守ることに参加（フェアトレード、チャリティコンサート e t c）
- ◇NGO・JICAのイベントに参加 ◇ワークショップへ参加 ◇いろいろな人・価値観に出会う

C. 問題解決に取り組む団体を応援する。

- ◇ボランティア（活動） ◇すでに活動している人へ応援する ◇NGOを応援する

D. 世界や地域で、地球の抱える問題解決に向けた直接的な活動を行う。

- ◇現地のニーズを知って支援する（物を送るなど） ◇JICAに参加する
- ◇みんなと協力してより良い未来を！ ◇エコキャップ等、何か毎日続けるような事を始めてみる
- ◇できることをみつけ、少しずつ行動に移していく ◇スタデーツアー、協力隊をやってみる

E. 便利さ・効率・利益などを追求する生活のあり方を見直す。

- ◇資源の使い過ぎに注意する ◇裏には様々な問題があり、今の生活を当たり前だと思わない。
- ◇貧しさを感じない豊かな心→あいさつ ◇変える（生活・意識） ◇意識して生活する
- ◇安い商品が良いという考えを改める（背景も知る） ◇できるだけ節電節約する
- ◇自然の中で過ごす ◇自然とふれ合う機会を出来るだけ多くとる
- ◇マイ箸、弁当 ◇利益にばかり目を向けない ◇新しい価値に気付く（昔はあったもの）
- ◇エネルギー消費を控える ◇必要な量、ほどほどの満足に気付く ◇車通勤→自転車通勤に
- ◇ライフスタイルを変える ◇物、衣類など長く使用する ◇水・森林・エネルギーを大切に扱う
- ◇「勿体ない」の精神を持つ ◇自分を振りかえる“間”をもつ（当たり前）

F. エコでフェアな商品づくりや社会貢献活動を企業に働きかける。

- ◇地球に優しい物を買う ◇環境にやさしい消費 ◇モノを選んで買う ◇フェアトレード商品を買う
- ◇地産地消を心がける ◇物を買うときにその背景を考えながら商品を選ぶ
- ◇よい企業や団体を応援する ◇WinWinの視点、WinWin商品
- ◇生態系を壊すような乱獲をしない ◇生産・流通のしくみを知ってかしこい消費者になる
- ◇適正価格で買う（安さばかりを追求しない） ◇モノを購入・消費する時にそのルーツに目を向ける

G. 日本や地方自治体ができることを提案し、政治を動かす。

- ◇国を越えて訴えかける

H. 家庭、地域、学校における共育を通して、行動できる人を増やす。

- ◇伝える（教育） ◇意識改革を働きかける ◇学校現場で子どもたちに伝える
- ◇数年後動ける子ども達を育てる ◇（解決のため）どうするとよいか考えること
- ◇ワークショップを実施して世間に広める ◇自分の生徒に、人権、環境に関する教育を進めていく
- ◇Workshopで知ったことを子どもや人に伝える。（楽しんで） ◇仲間を増やす
- ◇自分が積極的に学び、物の考え方や価値観を振り返り、生徒に伝えていく
- ◇意識・知識を変える→自分たちのこととして考えられるような教育 ◇きちんと判断できる人になる

I. その他（他者、他国を想う気持ちなど個人の全般的な意識）

- ◇思いやり、他者理解 ◇プラスのオーラを出すこと ◇他人を想う心をもつ
- ◇他者の考えを尊重する ◇まずは自分自身健康であること ◇柔軟な発想
- ◇旅行に行く時にその国のことをよく知る ◇常に公平で！ ◇問題意識を継続する
- ◇心に余裕を持つ ◇想像力を養う ◇地球全体のことを考える
- ◇自分のことに置き換えて考える ◇選択を変える ◇人や自然の温もりに感謝する